



母校の発展を願って

同窓会長 吉田 政直

昭和47年度体育学科卒業



はじめに

この度、田口和男先生の後を受けて、会長職を拝命いたしました。身の引き締まる思いであります。会員の皆様のご理解・ご協力なくして成し遂げることはできません。どうぞよろしくお願いいたします。

また、輪番ということで岐阜大学同窓会連合会会長の重責を6月1日開催の同窓会連合会総会の承認を得て担うことになりました。重ねて皆様のご協力をお願いいたします。

同窓会連合会は、6つの学部等同窓会「教育学部同窓会、森の会(地域科学部同窓会)、医学部同窓会、医学部看護学科同窓会、工業倶楽部(工学部同窓会)、各務同窓会(応用生物科学部同窓会)」の連合組織として、大学との連携及び学部同窓会相互の交流を図ることにより、大学及び学部同窓会の発展に貢献することを目的として2009年(平成21年)に設立されたものです。

教育学部同窓会活動について

岐阜大学教育学部は、1873年(明治6年)、大垣旧藩庁を校舎とする「師範研習学校」として創設以来、長い歴史に支えられ7年後の2024年には創立150周年を迎えます。卒業生は3万名を越え、現在の会員は2万余、岐阜県教育の中核を担ってきました。

同窓会は1951年(昭和26年)、「学芸学部同窓会」として発足しています。この間活動を支えてきたものは、田口和男先生が会長就任に当たって掲げられた「母校の発展を願う心」ではないかと思います。先輩諸氏の思いを引き継いで、同窓会活動を展開していきたいと考えています。会員の皆様はじめ、理事・評議員の皆様、同窓会活動の中核を担う総務、組織、事業、広

報の4部会の役員幹事の皆様には、格別ご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。(本誌6頁参照)



【同窓会理事会・評議会】

教師を目指す学生を全力で応援したい

岐阜市教育研究所に勤務していたとき、受講者から「心に残った教師の言葉」を集め、小冊子にしたことがあります。小・中・高等学校時代の先生の言葉とともに、大学時代の恩師の言葉が多く寄せられました。

その中の一つに「教育実習が始まる前日、研究室(現在の講座)の先生から『教職に就くということは、教師という職業を選ぶことではなく、教師という生き方を選ぶことである』とよく言われます。また教師に必要なものは情熱だ、という言葉が聞かれます。情熱だけでやっていける仕事があるのでしょうか。関心・意欲はみなぎるものの、知識・技術がない医者に診察を受けたいと思いますか。情熱だけでは1日も務まりません。どんな仕事も基礎的・基本的な知識・技術が無ければ職責を果たすことはできないでしょう。教師も同じことです。』と、明日からの実習に立ち向かうエネルギーをもらったことを思い出します。(50代男性)」

という言葉がありました。

教師を目指し情熱を傾けた若き日に恩師からかけられた言葉には力があり、時間の経過とともに重みを増してくるものがあります。

岐阜大学教育学部は教員養成に特化した学部であり、現在千名を越える学生が、教師になるという明確な動機・目的をもちながら日々学んでいます。ここ数年、教員就職率は高い数値であるようです。教育学部の先生方に感謝するとともに、教師を目指す学生を同窓会も全力で応援していきたいと考えています。



岐阜大学創立70周年記念事業, 岐阜大学基金について

岐阜大学は、1949年(昭和24年)5月31日に新制大学として発足以来、社会の期待に応える「学び、究め、貢

献する」人材の育成を最大の使命とし、様々な教育研究活動に取り組んできました。現在、教育学部、地域科学部、医学部、工学部、応用生物科学部の5学部、8研究科をはじめ、多くの学内研究施設を有する東海地方の拠点中規模総合大学として、その地位を確立しています。

岐阜大学は2019年6月に創立70周年を迎えることになり、次のような記念事業が計画されています。同窓会連合会としても連携して取り組むことにしておりますので、ご支援、ご協力を心よりお願いいたします。

■ 70周年記念事業概要

(1) 学術アーカイブの構築

岐阜大学が長い時間をかけて生み出してきた様々な資料の整理・保管機能を、より一層強化し、キャンパスをアーカイブ化する学術コアとサテライトを設置・整備

(2) 記念誌の編集・発行

(3) 記念式典、記念講演等

■ 岐阜大学基金で展開する事業概要

(1) 多様な学生に対する修学支援

(2) 地域産業人養成のための教育活動の展開

(3) 強み、特色ある研究活動の展開



【地×知の拠点アーカイブ・コア】



【自然史系資料サテライト (教育学部)】

国立大学法人教員養成学部の課題と改革の方向性

岐阜大学教育学部・教育学研究科の新たな取り組み



教育学部長 池谷 尚剛

教育学部・教育学研究科の現況

教育学部の現況と進路

教育学部は、学校教員養成課程（230名）と特別支援学校教員養成課程（20名）の学生定員250名から構成され、全員が教育職員免許の取得を卒業要件としています。学校教員養成課程では小学校一種・中学校一種（学校教育講座は小・中いずれかと諸資格）、特別支援学校教員養成課程では小学校一種・特別支援学校一種を取得します。また、幼稚園、高等学校の教育職員免許、学校図書館司書教諭の取得や、公認スポーツ指導員、博物館学芸員、社会教育主事、認定心理士等の諸資格を取得することができます。平成29年3月卒業生247名の進路状況は、学校教育（教員）と教育・学習支援業を併せて58.7%（平成27年度54.2%）、大学院等の進学16.6%（同19.5%）、官公庁9.3%（同8.8%）、一般企業等15.4%（同17.5%）となっています。教員養成学部としての教員就職率は57.1%で、全国平均を下回っている厳しい状況です。尚、教育学部卒業生の累計は17,956名になりました。

教育学研究科の現況と進路

大学院教育学研究科は、教職実践開発専攻（教職大学院；教職修士課程）を改組して、これまでの学校改善・授業開発・教育臨床実践・特別支援学校の4コースから、学校管理職養成コースと教育実践開発コースの2コースにし、学生定員を20名から25名に増員しました。修士課程は、学生定員5名を減員し、心理発達支援専攻（10名）、総合教科教育専攻（34名）の2専攻から構成されています。研究科としての学生定員は69名のままです。

教職実践開発専攻は、これまでのミドルリーダー養成に加えて、複雑化・多様化する学校教育において学校管理職としての専門性を獲得することができる学校管理職養成コースを設置し、教員のキャリア形成や育成指標のニーズに応える体制を整えました。また、心理発達支援専攻には、臨床心理学・学校心理学・特別支援教育の3コースがあり、臨床心理士・学校心理士の養成カリキュラムに対応しています。平成26年度から入学生を迎えた総合教科教育専攻には、言語社会コース（国語・英語・社会）、サイエンスコース（理科・数学・技術・家政）、芸術身体表現コース（保健

体育・音楽・美術）、カリキュラム開発コースの4コースがあり、サテライト教室の設置やインターネットを活用して社会人学生のニーズに応えるように努めています。平成28年9月と平成29年3月の修了生合計68名のうち、社会人学生20名は現職復帰（13名は県派遣教員）しています。その他の修了生48名の進路状況は、学校教育（教員）が69.1%、専門職の業種等が30.9%となっています。教育学研究科修了生の累計は、1,317名になりました。

教員養成のグローバル化

教育学部・教育学研究科の国際交流活動には、外国人留学生の受入れと外国大学への派遣学生とがあります。平成28年度の外国人留学生は、大学院生4名（中国3名、フィリピン1名）、学部学生1名（中国）、教員研究留学生1名（グアテマラ1名）、研究生5名（中国4名、ミャンマー1名）、並びに大学間及び学部間協定大学から派遣された特別聴講学生6名（ドイツ1名、オーストラリア2名、中国3名）の計17名でした。海外大学への派遣留学生（短期・長期）は、ノーザンケンタッキー大学（米）11名、同済大学（中国）2名、カセサート大学（タイ）1名、グリフィス大学（豪）1名、シドニー工科大学（豪）1名の計16名になり、学生たちの積極的な留学志向が認められます。

附属学校・附属センターの現況

教育学部・教育学研究科の附属施設は、これまで加納地区に附属小学校・附属中学校、柳戸地区に郷土博物館、特別支援教育センター、心理教育相談室がありましたが、平成29年度に「学習協創開発研究センター」が新たに附置されました。このセンターは、平成15年度に教育学部附属カリキュラム開発研究センターから全学組織の総合情報メディアセンターに移行し、今年度、教員養成の現代的ニーズに応えることを目的とするセンターとして設置されました。学習協創開発研究センターのプロジェクトとして、8月に羽島市・岐阜大学教育学部・株式会社文溪堂の三者で、教材開発・研究に関する協定を締結しました。学校教育に関する民間企業との連携は全国的にも先進的な取り組みです。今後の成果が期待されます。

国立教員養成大学・学部、附属学校に関する最近の動向と取り組み

同窓会報No20で「ミッションの再定義」について、同窓会報No22では中央教育審議会の三つの答申(教員の資質向上, チーム学校, 地域と学校との連携・協働)と、平成28年8月に設置された「国立教員養成大学, 学部, 大学院, 附属学校の改革に関する有識者会議; 以下, 有識者会議」について、教育学部・教育学研究科の取り組みを報告させていただきました。

平成29年8月に有識者会議の最終報告が発表され、教員養成機能を強化するために、①確実なPDCAサイクルの実現、②「協議会」を通じた地域との連携、③教員就職率の引き上げ等、④教職大学院の教育内容の充実、⑤現職教員の教育・研修機能の強化、⑥予算、人材、一定の規模と効率性の確保による機能強化が求められました。また、附属学校の存在意義の明確化と大学のガバナンスも求められています。特に、機能強化の方向性として、少子化に伴う学生定員の見直し、近隣の国公立大学の間で、一部教科の教員養成機能の特定大学への集約や、共同教育課程の設置等の連携・協力が、注目されるところです。さらに、平成33年度までに、各大学・学部で一定の結論をまとめることが求められています。

10月に実施された本学部と文部科学省との意見交換において、本学部・研究科・附属学校の取り組みとして、次の提案を行いましたので、ご参照ください。

教育学部の取り組み

▶「ぎふ清流入試」の実施

平成29年7月に概要を公表したように、岐阜県内の教育現場で活躍できる人を募集する推薦入試「ぎふ清流入試」を平成31年度入試から実施します。募集人員は全体で42名、選抜方法は、センター試験、学修計画書の提出、面接は個人面接と集団面接を行います。

▶岐阜県の教員需要の推移に基づく入学定員の見直し

平成32年度に25名定員減を予定しています。

教育学研究科の取り組み

▶教職大学院の進化・発展

平成29年度に改組して、学校管理職養成コースと教育実践開発コースを設置し、定員を5名増員して25名としました。今後は、「岐阜の教員は岐阜の大学・大学院で養成する」を理念として、近隣の私立大学との連携を強化する取組を展開します。また、修士課程を教職大学院に移行する取組についても、教員養成機能の強化の観点から検証を重ねながら進めていきます。

▶教育委員会との連携の強化

独立行政法人教職員支援機構の教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業に採択された「教職大学院と教育委員会・学校の協働による学校管理職養成実習のプログラム開発」を進めます。

附属学校の取り組み

▶岐阜大学版コミュニティサークル構想

地域の公立学校(小学校3校, 中学校2校)を研究協力校として指定し、研究成果の地域還元を進めます。

▶カリキュラム・マネジメントの検討

文部科学省の調査研究「これからの時代に求められる資

質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」に、全国で唯一、学校として採択されました。過当たりの時間数や一単位当たりの授業分数について工夫します。

▶働き方改革を進めます

勤務時間の把握、早期退勤日の設定、業務内容の見直しに取り組みます。

岐阜大学創立70周年記念事業への協力依頼

岐阜大学は平成31年6月に創立70周年を迎えるにあたり、記念事業に取り組みます。本事業は、教育学部の郷土博物館の存在が契機となっています。次の①「記念事業趣意書(一部抜粋)」ならびに②「地×知のアーカイブ事業：地域文化学術拠点としての岐阜大学」をご参照いただき、同窓会の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。尚、同窓会連合会を通じて、教育学部同窓会へも協力依頼が届いていることと思います。寄付金の目標額は1億5千万円を見込んでいます。何卒よろしくお願い申し上げます。

① 記念事業の趣意書(一部を抜粋)

岐阜大学はこの70周年を契機として、将来ビジョンを実現し、より存在感のある大学として発展していく所存です。併せて、学内に蓄積された知の財産を大切に、未来に継承していく取り組みにも力を注ぎたいと考えています。岐阜大学には教育学部に保存されている古文書等の歴史史料や植物標本等をはじめとして各学部に貴重な学術資源が数多く存在しています。この機会にこれらを学内全体で洗い出し、再整理し、保存していくこと(キャンパスのアーカイブ化)は、科学、文化振興を担う大学としての使命であると考え、ぜひこの事業を実現したいと思います。

② 地×知のアーカイブ事業

これまでに教育学部郷土博物館の収蔵品の整理や収蔵品目録の発行、郷土博物館の特別公開および内覧会(ナイトミュージアム)の開催、教育学部植物標本庫の資料展示や学外への出張展示等を行いました。

この事業では、次の機能強化を目指しています。

▶岐阜大学の保有する歴史的資料・学術資料のデータベース構築

▶アーカイブ・コア(図書館)の設置・整備

- ・大学史、学部紹介スペースの設置
- ・各学部所有の歴史的・学術資料の収集・保管
- ・資料収蔵庫の設置
- ・教員・学生・卒業生・学校の児童生徒・地域の皆様方のための展示ギャラリーの設置

▶自然史系資料サテライト(教育学部他)

- ・自然史系資料の収集・保管
- ・植物標本庫の設置

▶人文系資料サテライト(地域科学部)

- ・人文系資料の収集・保管

平成 29 年度 岐阜大学教育学部同窓会役員

会長

吉田 政直 (S47 体育)

副会長

田口 機子 (S40 体育)

黒田 隆吉 (S47 地学)

後藤 信義 (S47 英語)

村瀬康一郎 (S53 数学)

幹事 (◎部会長 ○副部会長)

総務部会 (担当副会長 村瀬康一郎)

◎ 村瀬康一郎 (S53 数学)

○ 高木 敏彦 (S48 史学)

高橋 和子 (S49 美術)

森 社 (S51 化学)

菱川 洋介 (H16 数学)

組織部会 (担当副会長 黒田 隆吉)

◎ 加藤 直樹 (S54 物理)

○ 高橋 忠明 (S48 技術)

末松 豊生 (S54 教育)

興戸 律子 (S54 数学)

事業部会 (担当副会長 後藤 信義)

◎ 山田 正昭 (S49 地学)

○ 矢嶋 英敏 (S51 英語)

清水 優子 (S50 家政)

河合 鋭夫 (S52 技術)

小野木 卓 (S53 哲学)

原 尚 (S53 体育)

鈴木 祥隆 (H22 特支)

広報部会 (担当副会長 田口 機子)

○ 竹市 安彦 (S49 美術)

栗田 京 (S49 技術)

大石 英文 (S49 国語)

今井 亜湖 (H 8 技術)

監査

國枝 俊介 (S44 美術)

富成 孝志 (S47 地学)

増田 行義 (S48 英語)

評 議 員

大学系		
国文	藤根 隆	S62
	遠山 健二	S62
	吉永 康昭	H5
	富山 哲成	H8
	丹下 侑輝	H19
史学	西村 覺良	S39
	友田 靖雄	S40
	旭 健	S47
	高木 敏彦	S48
	川部 誠	S52
地理	小牧 壽	S45
	小林 直樹	S50
	豊島 博	S58
	堀江 秀樹	S58
	新井 恒雄	H6
法経	村井 俊之	S56
	横田 稔	S57
	清水 泰浩	H2
	丸山 靖生	H3
	古川 徹	H19
哲学	近藤 新八	S43
	柘植 卓伸	S52
	國定 幸敏	S53
	榊井奈津子	H 元
	奥村 直也	H5
数学	高田 哲夫	S41
	瀬瀬 政昭	S48
	中川 敏之	S50
	熊崎 盛敏	S55
	名取 康夫	S57
物理	奥田 好紀	S56
	若曾根 隆	S58
	堀部 昇	S61
	市原 隆行	H2
	竹腰 宣行	H3
化学	興戸 浩道	S54
	服部 公彦	S57
	白木 和雄	S59
	酒井 茂	S61
	田辺 美樹	S61
生物	安藤 志郎	S43
	大野 伴和	S52
	井上 好章	S53
	渡辺 寛樹	H9
	細江 達三	H18

大学系		
地学	小栗 敬彦	S42
	山元 敏治	S45
	大平 柳一	S49
	水谷 憲司	S55
	古田 靖志	S58
音楽	棚橋 弘	S48
	山田真紀子	S54
	羽土 聡	S58
	丸山 真姫	S59
	杉本 公彦	S61
美術	酒井 賢	S34
	長谷川 清	S37
	國枝 俊介	S44
	竹市 安彦	S49
	鬼頭 立城	S60
体育	中村 博巳	S39
	田口 機子	S40
	石子 裕朗	S45
	岡部好四郎	S52
	谷端 良夫	S55
技職	伏屋 敬介	S45
	高橋 忠明	S48
	清水 茂樹	S58
	吉田 竹虎	S62
	淀川 雅夫	H7
家政	杉山 恵子	S48
	清水 優子	S50
	南川 明子	H8
	佐野 陽子	H11
	安江 佳代	H12
英語	後藤 信義	S47
	高田 大嗣	S52
	服部 吉彦	S54
	深尾 雅人	S57
	久保田信孝	S63
教育	安田 和夫	S53
	柳川 禎章	S53
	神谷 弘子	S53
	松井みどり	S54
	江崎 麻美	S61

師範系		
師範男子	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
師範女子	高井 玉枝	S15
	大前 美子	S16
	田中 良泉	S17
	野中 和子	S20
	小倉三千子	S23
青年師範	安田 嗣朗	S21
	石田 幸彦	S24
	今井 昌喜	S25
	服部 真六	S26
	乾 乃武子	S26

理 事

大学系		
国文	曾我部領史	H8
史学	西村 覺良	S39
地理	小牧 壽	S45
法経	山本 讓	S48
哲学	谷本 龍馬	S50
数学	堀部 邦雄	S36
物理	鈴木 雅史	S50
化学	桐村 良昭	S53
生物	小椋 郁夫	S49
地学	岩田 將之	S48
音楽	棚橋 弘	S48
美術	石原 通男	S32
体育	高橋 茂徳	S41
技職	伏屋 敬介	S45
家政	野村 令子	S34
英語	古澤 哲男	S42
教育	古田 信宏	S54
師範系		
男師	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
青師	石田 幸彦	S24
	服部 真六	S26

平成 29 年度 岐阜大学教育学部同窓会評議会報告

日 時 平成 29 年 6 月 3 日 (土) 13 時 00 分から
場 所 教育学部本館 7 階 第一会議室
出席者等 評議員・理事・役員 125 名 (内委任状出席 86 名)
会 議 議事については、議長として後藤信義氏を選出し、以下の事項について審議した。



- ① 平成 28 年度事業報告
村瀬総務部会長、加藤組織部会長、黒田事業部会長、辻広報部会長から資料に基づき報告があった。
- ② 平成 28 年度決算報告
村瀬総務部会長から 28 年度の会計決算報告があった。
- ③ 会計監査報告
大塚頼明会計監査から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切に行われている旨の報告があった。
- ④ 事業報告及び決算の承認
審議の結果、報告の通り 28 年度事業と決算が承認された。
- ⑤ 次期同窓会会長の選出について
会長推挙委員会高橋委員長より、次期会長に吉田政直氏を推挙する旨の報告及び推挙理由についての説明がなされた。
これを受け、審議の結果、吉田政直氏を次期会長として決定した。
- ⑥ 新同窓会長挨拶
新同窓会長に決定した、吉田政直氏からの挨拶。
- ⑦ 新役員の決定承認と報告
吉田同窓会長より、新役員の提案があり、これを承認した。
- ⑧ 旧役員の挨拶・紹介
前同窓会長より挨拶があり、旧役員の紹介がなされた。
※※役員交代※※
- ⑨ 平成 29 年度事業計画
村瀬総務部会長、加藤組織部会長、山田事業部会長、辻広報部会長から各部の事業計画の提案がなされた。
- ⑩ 平成 29 年度予算審議
村瀬総務部会長から、29 年度予算についての提案がなされた。
- ⑪ 事業計画案及び予算案の承認
審議の結果、平成 29 年度の事業計画と予算を承認した。
- ⑫ その他

平成 28 年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

<収入の部>		科目	決算金額
		前年度繰越金	2,404,949
		同窓会費	6,480,000
		雑収入	10
		合計	8,884,959
<支出の部>		科目	決算金額
		運営費	2,234,069
		庶務費	1,426,000
		事務管理費	427,210
		役員会費	274,463
		通信費	42,800
		渉外費	14,266
		交通費	49,330
		組織活動費	1,369,686
		名簿管理費	942,958
		名簿作成助成費	10,216
		同窓会入会式費	416,512
		学部援助費	232,000
		事務援助費	72,000
		教育文化助成費	160,000
		事業活動費	1,760,688
		成果刊行費	821,232
		会議費	686,262
		事務費	253,194
		広報活動費	2,290,444
		印刷費	1,267,007
		通信費	1,023,437
		次年度繰越金	998,072
		合計	8,884,959

●事業活動基金

<収入の部>		科目	決算金額
		前年度繰越金	40,767,970
		利息	7,079
		合計	40,775,049
<支出の部>		科目	決算金額
		貸金庫料	8,640
		次年度繰越金	40,766,409
		合計	40,775,049

●教育実践事業基金

<収入の部>		科目	決算金額
		前年度繰越金	3,446,607
		利息	85
		寄付金	200,000
		合計	3,646,692
<支出の部>		科目	決算金額
		教育実践論文顕彰費	406,000
		次年度繰越金	3,240,692
		合計	3,646,692

平成 29 年 6 月 3 日評議会で承認済み。

平成 28 年度 教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	7 入学式	● 役員変更状況確認	● 第 31 集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回	
5	14 運営委員会		● 第 31 集発刊 ● 第 32 集に係る教育研修課への依頼 24 第 30 集配布作業	
6	1 岐阜大学創立記念行事 4 理事会・評議会の開催		● 教育事務所長会, 県小中校長 会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	4 第 1 回部会 (担当分担, 細部打合せ)
7			● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	7 拡大運営委員会	● 会費未納者再請求 ● 1 年生 I D パスワード配布		● 執筆者の原稿作成 ● 会報の原稿集め
9				● 印刷業者の選定
10			● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	● レイアウト, 挿絵, 配置など 31 第 2 回部会 (編集会議)
11			● 審査依頼；都市教育長会長, 町村教育長会長, 県小中校長 会長, 同小校長会長, 同中校長 会長	● 会報の原稿の校正 (初校) ● 会報の原稿の校正 (2 校)
12				● 同窓会報第 22 号発行・発送
1	13 拡大運営委員会		23 事業部会	
2	18 臨時理事会		15 論文概要入手, 予備審査, 最終審査資料作成	
3	25 教育学部同窓会入会式 及び卒業生との懇親会		1 第二次審査会 15 最終審査会 ● 教育実践研究入賞論文集 - 第 32 集 - 発刊手続き開始	

教員採用試験の 状況について

教育指導員 山田 正昭

昭和49年度生物地学科(地学)卒業

教育指導員 高橋 和子

昭和49年度美術工芸学科卒業

1. 教員を目指す「オール岐阜大学」

教育学部の学生、院生、既卒者の教員採用試験(平成29年度実施)の受験者は、表1の通りである。

<表1>

	学部生	院生	既卒者 岐阜県	総合計
小学校	92	11	42	145 + α
中学校	40	7	18	65 + α
高等学校	27	4	22	53 + α
特別支援学校	11	0	11	22 + α
幼稚園	1	0	0	1 + α
総合計	171	22	93	286 + α

(+ α は他県受験の卒業生数)
※進路相談室把握分

岐阜県・愛知県在住の既卒者については、教育学部の同窓会・後援会のご支援やACT(アクト)支援室の協力を得て「卒業生学習会」を進路相談室が主催して行った。

2. 幅広い同窓会員に支えられる「勉強会」

今年も、多くの岐阜大学教育学部の同窓生の皆様に「小学校学習指導要領の解説」「個人面接練習」「中学校実技指導」「小学校実技指導」等で直接ご指導をいただいた。おかげで、学生は採用試験に対する心構えを確立したり、不安の解消をしたりして自信につなげることができた。

また、学部をあげての「集団模擬面接」では教職大学院・教育支援部・教育学部対策委員・教育学部教学委員の先生方から、力強いご支援やご指導をいただいた。

1 次試験対策

○筆記試験



【学習指導要領の解説：小学校】

○集団模擬面接



【集団模擬面接：全校種】

3. 主体的に取り組む学生の「学習会」

【学生の言葉】

「自分は、教員に向いているのだろうか。」と迷いながら、9月の中学校での教育実習に向かいました。が、子どもたちの笑顔やがんばる姿に触れ、11月の小学校実習を終える頃には、教員という仕事が少し分かったような気がしました。そして、12月の教育講演会講話や先輩の話を聞く中で、「教員になりたい。」という思いが固まりました。1月の中頃に講座の6人の仲間とグループをつくり、進路相談室を訪ねました。2月の初旬から空き時間を利用して「学習会」を開始しました。相談室の先生の指導を受けながら、7月までに全部で15回行いました。「いじめ」や「学級づくり」のような教育に関する勉強会と、実際に想定した集団面接練習等でした。一緒に取り組む仲間の大切さを実感したと同時に、自分の教育に対する考え方や見方がより一層深まりとても充実していました。教員採用試験に合格して、「立派な先生になりたい。」と強く思いました。

2 次試験対策

○実技指導



【実技指導：小学校体育】

○グループワーク



【グループワーク：小・中学校】

学習会・グループワーク・プレゼン面接・集団討議・論文・論述の指導も、年々充実してきています。

平成28年度教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 山田 正昭

昭和49年度 生物地学科（地学）卒業

はじめに

昭和24年に新制大学として発足した岐阜大学が、平成31年度創立70周年を迎え、記念事業が計画されています。教育学部は、前身の師範学校から数えると、今年度145年目となり、昭和58年9月に長良の地から柳戸に移って早くも34年が経過しました。

この「教育実践研究助成事業」も統合移転を機に始められましたので、昨年度で第32回となりました。

本事業は、岐阜県教育委員会、市町村教育委員会の教育行政機関と岐阜県小中学校長会等の深い理解と絶大な協力が得られています。また、平成10年度からは当事業推進のため、財団法人岐阜県教職員互助会から教育文化助成金をいただいています。こうした様々な機関によって支えられています。

第2次岐阜県教育ビジョンでは、5つの基本目標の中に、「確かな学力の育成と多様なニーズに対応した教育の推進」と「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」を掲げ、総合的・計画的に取り組まれています。中でも、学力向上を核とした小・中学校教育の改善については、重点政策として、
●全ての小・中学校における「指導改善サイクル」の確立

- 個に応じたきめ細かな指導の充実
- 小学校からの教科専門性向上による教科の授業の充実の3つを示しています。

これらの方向は、これまでの諸先輩たちが取り組まれてきた教育実践研究論文と見事に重なります。論文は、自分の思いを教職員に読んでもらうことが目的となります。しかし、教育実践研究論文は、自分の実践がより多くの教育活動に進化・発展することを願いつつ、実践をまとめる本人自身が自己内省し、次の実践への力強い歩み出しを図ることが大切だと思います。

応募状況と傾向

- 平成28年度の応募の傾向は次のとおりです。
- 応募者数1,266名で、応募者率は前年度と同様、教職員全体の11%を維持しています。(下表参照)
 - 20歳代の応募者663名、30歳代が349名で、応募者全体の80%を占め、若手教員が自己の実践をみつめる積極的な応募に価値があると思います。
 - 全応募点数の内、中学校教職員からの論文が38%あり、優秀賞、優良賞に16点が選ばれました。中学校の教育活動

<表1>平成28年度に応募状況：職種別、年代別、性別応募人数（総計1,266名）

	校種	職 種 別										年 代 別						性 別		
		校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	講師	A L T等	小計	20代	30代	40代	50代	60代	小計	男性	女性	小計
総計	小	7	8	2	709	24	4	6	31	1	792	397	206	129	56	4	792	347	445	792
	中	2	2	2	448	4	3	3	10	0	474	266	143	50	14	1	474	303	171	474
	計	9	10	4	1,157	28	7	9	41	1	1,266	663	349	179	70	5	1,266	650	616	1,266

<表2>平成28年度に応募状況：領域別応募論文数（小776点、中468点、総計1,244点）

	校種	教科										教科以外												
		国語	社会	算数・数学	理科	生活	音楽	図・美	技家	保体	英語	小計	道徳	特別活動	総合学習	外国語活動	学級経営	生徒指導	特別支援	健康安全	管理経営	その他	小計	総計
総計	小	126	78	142	31	26	28	18	13	47	13	522	27	25	8	17	49	7	42	31	15	33	254	776
	中	47	44	66	46		15	10	19	45	69	361	11	11	6		32	4	21	6	2	14	107	468
	計	173	122	208	77	26	43	28	32	92	82	883	38	36	14	17	81	11	63	37	17	47	361	1,244

が着実に進められている状況が感じられました。

- 昨年度に続き、60歳代が5名、50歳代は70名と、ベテラン教職員の素晴らしい実践が提出されました。

■審査会の報告

(1) 審査の経過

応募論文は、1月11日までに各市町村教育委員会に提出されました。その論文は、各市町村教育委員会での審査後、6教育事務所に提出され、第1次審査が行われました。各教育事務所毎で審査された論文は、第2次審査のため、県教育委員会教育研修課に提出され、3月15日の最終審査会で、最優秀賞、優秀賞、優良賞、新人賞合わせて74点が決定しました。

＜最終審査会の審査をお願いした皆様＞

学識経験者2名、教育研修課研修企画監、同課長補佐、各教育事務所長、各教育事務所教育支援課長、都市教育長会長、町村教育長会長、県小中学校長会長、県小学校長会長、県中学校長会長 以上21名

(2) 審査の観点

審査は次の5つの観点から厳正に行われました。

- ①教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。
- ②教育現場に密着して、目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか。
- ③児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
- ④研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか。
- ⑤教育実践・研究論文として明確な表記であるか。

(3) 平成28年度「最優秀賞」の紹介

上記の観点で、各教育事務所及び教育研修課で審査され、優秀賞候補10点の中から、最も優れた論文として「最優秀賞」が決定しました。

美濃加茂市立太田小学校 教諭 南川 明子

■論文テーマ■

＜国語＞ 言葉を楽しみ、実感し、

生き生きと表現する児童の育成

～表現活動を通して学ぶ国語科指導の工夫～

最優秀賞論文として「優れている点」を紹介します。

- 低学年の学力差の背景として語彙の量と質に着目し、工夫改善をめざした国語科の指導が優れている。
- 発達段階の特性を捉えて、「書く」「話す」の基本的な力の定着に「身体表現」を取り入れている。
- 児童の表情や動き、意識の変容を細かく分析して、学級全体の学びの姿を高める丁寧な指導がある。

- 実践の成果を児童の意識の変容で具体的に示し、わかりやすい記述・表現が説得力を高めている。



【最終審査会の様子】

■おわりに

教育実践研究入賞論文集第32集につきましては、例年になく数多くの校正ミスがあり、実践者のみならず関係各位にお手数でご迷惑をお掛けしました。改めてお詫び申し上げます。

最後に、平成29年度も教育実践研究助成事業が、「働き方改革」の中にあってもこれまで以上の実践が報告されることを願って、第二次審査会、最終審査会で話題になったことを載せ、報告とします。

- 日々の充実した教育活動等、多忙な勤務状況にあっても、実践論文の執筆に取り組み、学び続ける姿に審査する者として敬意を表したい。
- 国の動向を踏まえつつ、目の前にいる子どもたちの困り感を何とかしたいという実践こそ価値がある。
- 付けたい力と指導のねらいを明確にして指導に当たることにもっとこだわってほしい。アイデアの素晴らしい実践の手立てが多く見られたが、手立てそのものが目的化しないように気をつけてほしい。
- 論文の内容が自身のオリジナルなのか、他の実践や研究書籍を参考にしたものなのかを明確にして論述したり、参考引用文献を明示したりするなどして、誤解の無い表現や形にすることを心がけてほしい。

【お願い】

印刷送付しました「教育実践研究入賞論文集一第32集一」79頁の優良賞受賞論文の副題に誤りが見つかりました。関係者の皆様におわびするとともに訂正をお願いいたします。

訂正 教育実践研究入賞論文集 一第32集一
＊優良賞＊＜管理経営＞

学校事務職員による経営資源を活かした教育支援の在り方
～カリキュラム・マネジメントの視点に基づいて、
教育の情報化を推進する～

川辺町立川辺北小学校 主任 高木敦司



第32回（平成28年度）岐阜県小中学校 教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞（1編）		
美濃加茂市立太田小	南川 明子	言葉を楽しみ、実感し、生き生きと表現する児童の育成 ～表現活動を通して学ぶ国語科指導の工夫～ < 国語 >

優秀賞（9編）		
岐阜市立木田小	木 寺 悦 子	進んで自分の気持ちを伝え合うことで自己有用感をもち安心して学校で生活できる児童の育成 ～ピア・サポートにおけるSEL(社会性と情動の学習)を活用した自閉症スペクトラム障害をもつ児童への5つの支援～ < 特別支援教育 >
本巣市立一色小	加 藤 健	一人一人の多様性を尊重し、仲間と協働して、豊かに生きる児童の育成 ～特別支援教育・教育相談の理論を実践に結ぶ、通常学級における2年間の学級経営を通して～ < 学級経営 >
岐阜市立精華中	渡辺脩哉ラファエル	考えの変容や深化を生み出す数学科授業の創造 ～ねらいに即した意図的な協同学習を通して～ < 数学 >
大垣市立興文中	伊 藤 亜 希 子	生徒に自己の高まりを実感させ、やりがいをもたせる国語授業の在り方 ～生徒の国語力を一層伸ばす評価の授業をめざして～ < 国語 >
池田町立八幡小	清 水 ま ゆ み	自己を正しく見つめ、他者とともによりよく生きようとする心をもち、主体的に実践する子の育成 ～道徳科の授業に向けての実践～ < 道徳 >
郡上市立那留小	横 山 亜 希	自分の考えや思いが伝わるよう豊かに表現する児童の育成 < 国語 >
多治見市立陶都中	谷 口 信 也	学ぶ喜びを実感し、主体的に仲間とかかわる生徒の育成 ～自己評価活動を中心としたアクティブ・ラーニングの活性化を目指して～ < 保健体育 >
瑞浪市立瑞浪小	加 藤 美 香 子	コミュニケーションの的確な成立を目指した「聞いて理解する力」を伸ばす指導の在り方 < 特別支援教育 >
高山市立日枝中	山 崎 恵 子	題材文に応じたリーディングの指導～読む意欲を高める発問と発信する授業の工夫～ < 英語 >

優良賞（40編）		
岐阜市立加納小	小 澤 飛 鳥	身に付けた力を基に、主体的・協動的・創造的に学ぶ子を育てる、4月からのスタートダッシュプログラム < 学級経営 >
岐阜市立加納小	山口 章太郎	偏見や差別を正しく認識し、共によりよく生きようとする児童の育成 ～岐阜市が重点とする13の人権課題の授業実践を核として～ < その他 >
岐阜市立加納小	大 西 昭 裕	道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる道徳教育 ～自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める指導の工夫～ < 道徳 >
岐阜市立長良東小	小 野 寺 瞬	自らよりよい生き方を求めようとする子が育つ道徳教育 ～内面の揺れ動きの中から、よりよい生き方を求めようとする子が育つ道徳の時間の在り方～ < 道徳 >
羽島市立中央小	大 井 由 莉 菜	言語に対する理解を主体的に深め続け、生きてはたらく国語の力をのばす国語学習 ～学習の積み重ねや仲間の表現のよさから言語能力を高める姿を目指して～ < 国語 >
羽島市立中央小	梅 田 智 敬	よりよい社会の実現をめざす子が育つ社会科学習 ～社会的事象の意味を問い続け、社会認識を深める授業を通して～ < 社会 >
各務原市立那加第一小	石 樽 隆 之	数学的な思考力・表現力を育成するための指導 ～言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いて考える協働学習を通して～ < 算数 >
各務原市立八木山小	水 谷 暢 子	次世代に繋ぐ授業・学級経営・生徒指導の力の育成 ～初任者と二人三脚で歩む学年経営～ < 管理経営 >
各務原市立稲羽中	後 藤 陽 子	確かな学力の定着をめざし主体的に学び合える生徒の育成 ～ユニバーサルデザインの視点を踏まえて～ < ユニバーサルデザイン >
山県市立高富小	武 藤 映 水	考えることを楽しむ子 ～1年生が仲間や先生との対話を通して、考えを深める学習のあり方～ < 生活 >
瑞穂市立南小	棚 瀬 恵 子	「自分でできる」の実感がもてる児童の育成 ～自立活動と算数科の授業を通して～ < 特別支援 >
笠松町立松枝小	江 川 直 子	よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習 ～人や物と自分との関わりを追究し、地域社会への意思を表現できる子を目指して～ < 社会 >
北方町立北方中	虫 賀 紗 弥 香	主体的な学びから表現力や理解力を育成し、伝え合う力を高める国語科学習のあり方 ～実生活・実社会で生きる力「基礎的・汎用的能力」の高まりを目指して～ < 国語 >
大垣市立東小	久 保 田 大 作	学び合い、社会的事象を公正に判断する子の育成 < 社会 >
大垣市立宇留生小	後 藤 翔 大	単元を貫く課題に対する自分の考えをもつことができる社会科授業の創造 ～単元のねらいに迫る中心的な一単位時間の終末の活動の工夫を通して～ < 社会 >
海津市立石津小	池 田 小 百 合	一人一人のよさが生きる図画工作科指導のあり方 ～「鑑賞」の指導を生かして～ < 図画工作 >
養老町立養老小	宮 島 雅 治	主体性のある活動を通して、つくりだす喜びを味わえる児童の育成 ～自分らしく発想し、作品づくりに満足できる児童をめざして～ < 図画工作 >
養老町立東部中	細 川 誠	目的に応じて読む生徒を育てる国語科指導 ～意図的な小集団交流を通して～ < 国語 >
神戸町立下宮小	宮 田 栄 子	自ら判断し、自分らしい表現ができる児童の育成 ～「見付ける」「考える」「つくる」能力を高める指導過程の工夫～ < 図画工作 >
揖斐川町立清水小	宮 下 直 樹	子ども・教師・保護者が主体的に取り組む授業開発と校内研究の開発 < 算数 >
大野町立大野中	小 池 正 人	多様に変化する社会で、自己を生かす生徒の育成 ～個の成長を願った、望ましい集団活動の実践を通して～ < 学級経営 >
関市立富岡小	土 屋 寿 美	仲間とともに、自ら科学的に追究し続ける子の育成 ～主体的・対話的に深く学ぶことのできる理科授業の在り方～ < 理科 >
郡上市立白鳥小	濱 研 二	算数科における白小スタンダードの確立 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現に重点を置き算数の授業を考える～ < 算数 >

郡上市立北濃小	山田 麻衣	コミュニケーションを図る楽しさを体験する効果的な指導と評価の在り方 ～子どもが英語に慣れ親しむことができる授業づくりを通して～	<外国語活動>
関市立桜ヶ丘中	山田 貴之	よりよく生きようとする心を育てる道徳教育の在り方 ～心の成長と自己肯定感を実感できる生徒を目指して～	<道徳>
美濃加茂市立古井小	中島 利奈	主体的に学び、表現の楽しさを感じる子の育成 ～論理的に考える力を伸ばす指導の工夫～	<国語>
川辺町立川辺北小	高木 敦司	学校事務職員による経営資源を活かした教育支援の在り方 ～カリキュラム・マネジメントの視点に基づいて、教育の情報化を推進する～	<管理経営>
可児市立蘇南中	竹内 幸正	誰もが「分かった」「できた」と実感できる全員参加の授業づくり ～国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～	<国語>
御嵩町立向陽中	大城 真一	一人一人の成長を支える個別支援 ～継続的でいろいろな場面での支援の在り方～	<生徒指導>
土岐市立肥田小	内海 裕樹	仲間とともによりよい自分を求め続ける子 ～算数科の授業改善を中心にしたよりよい人間関係づくり～	<学級経営>
瑞浪市立瑞浪小	加藤 操	よりよい生活を創り出す豊かな心と実践力の育成 ～「教科の楽しさ」を実感できる授業づくり～	<家庭>
瑞浪市立瑞浪小	大崎 大地	体得・習得・納得で理科の楽しさが味わえる授業の創造	<理科>
土岐市立西陵中	江崎 大三	自ら主題を生み出す生徒の育成	<美術>
恵那市立明智中	代表 渡邊 直樹	郷土愛を基盤とした自分の生き方を考える「志学習」の推進	<総合>
恵那市立明智中	鈴木 勝久	通常学級における特別支援教育の充実を図るための特別支援教育コーディネーターのあり方の究明 ～通常学級における生徒・保護者並びに教職員への積極的支援を通して～	<特別支援>
中津川市立苗木中	坂本 颯希	生徒に「よりよい自分を求めて行動する力」を身に付けさせることができる学級経営を目指して ～「指導のキーワード化とステップ化」と「認め励まし」を柱として～	<学級経営>
高山市立北小	長瀬 優作	主体的に取り組む問題解決の過程を通して、自らの見方や考え方を科学的なものに高めていく理科授業の創造 ～単元構想図の作成、考察交流の工夫、授業終末の工夫を通して～	<理科>
飛騨市立山之村中	安江 彩	数学的思考力・表現力・活用力を高める授業づくり ～分析と準備・出番と出方・定着と評価に焦点を当てた実践を通して～	<算数>
下呂市立竹原小	今井 佑子	一人一人の教育的ニーズに応じ、自立・社会参加するための基盤となる力を育てる特別支援教育の在り方 ～一人一人のよさを生かし、関わり合いを大切に授業展開の工夫～	<特別支援>
白川村立白川小	三島 真紀	書くことを楽しめる子の育成	<国語>

新人賞 (24 編)			
岐阜市立加納小	小倉 啓史	小学校3年生が見通しをもって主体的かつ科学的に追究することができる理科学習の在り方 ～児童の実態や付けたい力を基にした指導改善を通して～	<理科>
羽島市立桑原中	澤田 真那	「本物」といえる仲間関係の実現に向けた学級経営の在り方 ～固定化された人間関係からの脱却を目指して～	<学級経営>
各務原市立鷺沼中	浜中 遼太	生徒が自身の高まりを実感しながら基礎的・基本的な知識・技能と円滑な対人関係を築くための力を身に付けることができる外国語科指導の在り方 ～自閉症・情緒障がい学級における初期の外国語科の指導～	<特別支援教育>
山県市立伊自良南小	小垣内 駿	社会的事象に対する思考力・判断力を高める社会科授業の創造	<社会>
瑞穂市立穂積小	奥村 元浩	習得した知識や技能を問題解決の根拠とし、主体的に学ぶ児童の育成 ～対話的に学ぶアクティブラーニングを通して～	<算数>
本巣市立糸貫中	高橋 直子	発達段階を考慮し、確かな力を身に付けるための年間指導計画 ～小学校と中学校の関連～	<美術>
笠松町立松枝小	山本 晃大	学び方を確実に習得し、意欲的に考えることのできる社会科授業のあり方 ～基礎的・基本的な技能を習得し、仲間との練り合いを通して、社会的な見方・考え方を高められる子～	<社会>
北方町立北方小	渡邊 紘子	仲間と進んでコミュニケーションができる子の育成 ～英語を自信をもって話し、楽しいと思える外国語活動を目指して～	<外国語活動>
大垣市立東小	矢橋 亜衣	「つながり」を意識した、仲間から学び合う図画工作の授業 ～第1学年 絵画・粘土の題材を通して～	<図画工作>
大垣市立牧田小	西脇 瑞貴	自らの健康に関心をもち、自己管理できる児童の育成 ～注意制御機能と疲労の観点から基本的生活習慣の確立を目指した取り組み～	<健康教育>
海津市立今尾小	丹羽 宏美	楽しみながら確かなコミュニケーション能力を養うことのできる外国語活動の在り方 ～児童のコミュニケーション活動と教師の評価を工夫して～	<外国語活動>
垂井町立岩手小	水野 礼菜	望ましい生活習慣の確立を目指して ～平成26年から平成28年睡眠指導の実践から～	<健康教育>
関市立金竜小	川嶋 彰子	仲間の気持ちを理解し、互いに高め合える児童の育成を目指して ～話し合い活動(学級力パワーアッププロジェクト)と学級遊びなどを通して～	<学級経営>
郡上市立八幡中	清水 啓太	ふるさとを愛し、地域社会づくりに主体的・協働的に参画、貢献できる生徒の育成 ～地域との繋がりの中で自らの生き方を見出す指導～	<総合的な学習の時間>
美濃加茂市立太田小	清水 崇紀	数学的な思考力・表現力を育成する算数授業の在り方 ～単元構想図の作成と言語活動の充実を通して～	<算数>
可児市立今渡南小	亀井 英喜	文章構成に留意しながら「書くこと」により自身の思いや考えを意欲的に表現できる児童の育成 ～単元構成の工夫とユニバーサルデザインを取り入れた授業実践を通して～	<国語>
八百津町立八百津小	井戸 良	主体的に登場人物の気持ちを読み取る児童の育成	<国語>
土岐市立土岐津小	杉本 繁征	どの子にとっても「わかった」「できた」「おもしろい」と実感できる社会科授業	<社会>
瑞浪市立陶小	柴田 賢治	社会的事象の意味を問い続け、社会認識を深める子の育成 ～「天皇中心の国づくり」を通して～	<社会>
恵那市立武並小	佐々木 拓真	積極的にコミュニケーションを図る態度を養う外国語活動 ～学んだ表現やスキルを生かしたコミュニケーションができる子を目指して～	<外国語活動>
中津川市立南小	水野 美咲	自ら進んで読み、表現できる子を育てる国語科指導 ～説明的な文章の学習を通して～	<国語>
瑞浪市立瑞浪南中	原田 沙恵	考え方を確かにし、数学のよさを実感する生徒の育成	<数学>
高山市立西小	杉浦 美波	生涯にわたり、よりよい食生活を送ることができる児童の育成	<健康安全>
下呂市立下呂小	堀部 奈菜	数学的な思考力・表現力の高まりを実感できる算数科学習の実践 ～仲間との関わり合いの中で、自分の思いや考えを伝えることの楽しさを味わう子を求めて～	<算数>

教育実践研究を論文としてまとめるためには

～平成28年度教育実践研究論文最優秀賞受賞者インタビュー～

今井 亜湖

平成8年度 技術職業学科卒

一生懸命取り組んできた教育実践研究をどのように論文としてまとめればよいのか。そのヒントを探るために、平成28年度教育実践研究論文最優秀賞を受賞した、美濃加茂市立太田小学校教諭の南川明子先生にインタビューさせていただきました。

--- 最優秀賞を受賞された教育実践を研究として取り組まれた経緯を教えてください。

今回、論文にまとめた教育実践研究は、2014～2016年度に行った小学校1年生の国語科の3年間にわたる実践です。私は小学校1年生の担任を連続3年受け持つ機会に恵まれ、過去2年間に同じ実践を連続で行ったことで、種々の課題が明らかとなり、それらの課題にどうアプローチしていけばよいのかを、1年間という期間で実践の見通しを立てることができるようになっていました。また、同じ実践を連続で行ったおかげで、資料、教材、経験が蓄積できていました。小学校1年生の担任3年目となった2016年度の実践を始めるにあたり、「3回目の取り組みだから今年度で一つの形になるのではないか」、「3年目だから成果を出さなければならない」という気持ちと、「そろそろ教育実践を論文化しなければならないだろう」という思いもありました。このように幾つものタイミングが重なり、論文にまとめることを意識しながら、2016年度の最初の授業を始める前に年間の見通し、どこにゴールを設定するのか、ゴールを達成するためにどのような力をそれぞれの授業でつけていくのかを決め、実践に取り組み始めました。

--- 教育実践研究を論文としてまとめるために、日々の教育実践ではどのようなことを、気をつけられていたのですか。

論文を書くのであれば、見通しをもって取り組んでいかないと、授業の記録を蓄積することができません。例えば、毎時の授業の板書を記録する、児童に返却する前にプリントのコピーを取る、授業の様子を写真に残すといったことです。論文を書こうと思った時には、その実践の資料をどんどん残しておかないと、論文を書くのは難しいと思います。

--- 南川先生の教育実践研究論文では、成果を示す写真が幾つも掲載されています。授業中の子ども様子のどのような時に記録されたのですか。

私が取り組んだ教育実践は年間を通したものです。ゴールに設定した11月の「じどう車くらべ」で「じどう車ずかん」を書かせるためには、4月からの積み重ねが重要になってきます。書く力、読む力、伝えたいものを示しながら話す力を、それぞれに関連する授業で身につけさせていかなければなりません。その様子を記録するために、他の教員が撮影してくれる公開授業の実践以外の日常の実践は自分で記録

を残すことを心がけました。ただ、この実践の記録は、論文にまとめるためだけではなく、生活科の授業で「1年間の思い出アルバムを作る」という教材として使うため、常にカメラを携行し、授業を行っていました。

撮影する時には、子どもの活動の様子だけでなく、ノートの状態、子どもの手元だけといった実践の状況を理解できるようなシーンも意図的に記録に残していきました。

--- そうなると、毎時の授業でつけさせたい力、力がついたかどうかの判断基準が授業を行う前に明確になっていたということでしょうか。

これまでの2年間の実践では、「じどう車ずかん」を自分の力で書かせるための力をきちんと身につけさせることができなかったわけです。それは、「じどう車ずかん」を自分の力で書かせるために身につけさせなければいけない力(教育実践研究 入賞論文集 pp.5-6 掲載の図)があり、どの単元でどんな力をつけるべきかの見通しが明確になっていなかったからだと思います。その見通しが3年目の実践を始める前には、このような図にはなっていませんでしたが、頭の中ではきちんと整理できていたので、それぞれの授業でどのような子どもの姿を記録しなければならないのかをはっきりさせ、授業に臨んでいました。

--- きちんと計画を立てて、教育実践研究を行っていくためにはどうしたらよいでしょうか。

私は「じどう車くらべ」という子どもが大好きな自動車の話をしていくことはできましたが、終末の「じどう車ずかん」を教科書のように書いてみよう」という課題のところで、子どもたちが書けないという苦しさを2年間、さらには前任校でも見てきていたので、3年目の実践ではゴールの設定や実践の見通しを立てるという活動ができたと思います。これは経験の積み重ねが大きいと思います。「じゃあ、この力をつけるためにはどうしたらよいのか」を考え、実践の目的を焦点化していったように思います。

--- 今回の教育実践を論文としてまとめる時に心がけたことはありましたか。

論文としてまとめる教育実践のゴールが、明確になるように気をつけました。そのために、そのゴールを達成するために自分が考えた仮説や実践の見通しをどのように表現すれば読む人に伝わるのかを考えながら書いていきました。

教育実践研究論文の見出しは決まっているため、その決められた様式の中で自分の実践をいかに伝えていくかも時間をかけて考えました。特に、研究内容を示す「3.研究内容」の目次の組み方は、その順番で自分の行った実践の伝わり方が違ってくると、先輩の先生からアドバイスをいただいたので、この部分は試行錯誤しながら組み立てていきました。

私は国語が専門ではないため、国語の研究論文で使用する専門用語がよくわかりませんでした。そのため、教育関係者ではない自分の両親が読んでも理解できる論文にすることを念頭に、文章を書いていきました。文章を書く時に難しかったのは、言葉の選び方でした。例えば「題材」や「教材」という言葉の使い方は教科によって異なるため、国語の実践を書く時にはどの言葉を使うのが適切なかを判断するのが難しかったです。

---今回の教育実践を論文としてまとめる活動を通して、南川先生が学んだと思われることはありますか。

成果が出ましたというまとめに持っていくのが論文だと思うので、その成果をまとめた時にどのような手立てを打ってきたかを示す必要があるわけです。「ねらいを明確に」と言われていますが、この1時間、この45分間でこれをさせたい、この単元を通してこれをさせたいという、ねらいを持って授業を行うことの大切さを、この論文をまとめることで改めて実感しました。教育実践はその繰り返しなんだと改めて思いました。例えば、11月の「じどう車ずかん」を書くためには、5月の促音・拗音の学習が要になってくることを、これまでの2年間の経験の積み重ねから知り、この部分をどのように指導すべきかを同僚の国語を専門とする先生に教わりながら、試行錯誤しながら実践を行った結果、これまでの実践では「じどう車ずかん」を書くことが難しかったC児も書けるようになりました。ある授業に焦点を当てた時、実はその授業につながる前の授業からきちんと指導をしていかないといけない、つまり単元だけでの学びではなく、年間を通じた学びの大切さを本当に実感した実践でした。

「伝国イ(エ)」の指導

教材名	付けたい力	手立て
ねことねこ	促音表記	音に合わせて手を打ち、音と共に学ぶ指導。
おばさんとおばあさん	長音表記	
おもちゃとおもちゃ	拗音表記	



「A話すこと・聞くこと」の指導

教材名	付けたい力	言語活動
わけをはなそう	「どうしてかという、～からです。」の語型を使って話す。	前に出て示しながら話す。
おもいだしてはなそう	「いつ・どこで・だれと・なに・どうした」を使って話す。 ※聞こえる声で話す。	マイクを使って話し、グループの子に聞いてもらう。
たからものを おしえよう	物の紹介と、なぜ大切か、語型を使って話す。	物を示しながら話し、グループの子の質問に答える。



「C読むこと」の指導

教材名	付けたい力	言語活動
はなのみち	くま・りすになりきって話すことで、場面の様子を捉える。	「なりきりおんどくはっぴようかい」をしよう。
くちばし	文の順番を守って書く。 ※自分の言葉で説明するために、身体表現を使って前で話す。	「くちばしクイズ」をいかいて、かぞくにだそう。
おおきなかぶ	登場人物になりきって演じ、心情を読み取る。 ※みんな演じることを楽しむ。	動作化し、登場人物の心情を想像しながら楽しく音読する。
うみのかくれんぼ	文の順序を考えて読む。 ※なりきって隠れ方を話すことを通して、本文を読み解く。	かくれんぼインタビューをしよう。
くじらぐも	楽しく動作化して子どもたちの心情を読み解く。 ※雲の上で歌うことが楽しい様子をグループ発表できる。	子どもたちになりきって、くじらぐもとの対話を楽しみながら音読する。



表現活動を通して言葉を実感し、楽しく本文を読む力が付けば、自分の力で「じどう車ずかん」を書くことができ、本文を読み解く力が付いたと言える。

南川先生にはお忙しいところ岐阜大学にお越しいただき、1時間ほど話を聞かせていただきましたが、紙面の都合で、教育実践を論文にまとめるために参考になるとと思われる部分のみを紹介させていただきました。これから教育実践を論文にまとめようと考えていらっしゃる方の参考になれば幸いです。

最後に、南川先生はインタビューの中で「私は恵まれた環境にいるので」という言葉を何度も言われました。これまでの実践でうまくできなかった部分に対して適切な助言を行ってくれる先輩教員、論文を執筆する時に助言をくれた先輩教員、同じ年に論文にとりくんだ同僚、教育実践研究がきちんと取り組める環境。人間は社会的な生き物だと言われますが、南川先生のお話を伺いながら、学び続ける教師を育てるためには、学び続けることを認める仲間及び環境が必要であることを再認識させられました。しかしながら、恵まれた環境にいれば教育実践論文が書けるわけではありません。やはり授業をより良いものにするためにどうすればよいのかという教師としての力量や、自分の教育実践を他の人に伝えるという力は、教師自身が学びのアンテナをはりめぐらし、試行錯誤しながら身につけていくものなのかもしれません。こうした素養を教員養成段階で育成しなければならぬと、インタビューを行いながら、たくさんの宿題をいただいてしまったように思います。

活躍する同窓生

羽島市教育委員会生涯学習課長 豊島 博

昭和59年度 社会学科地理学 卒業



今のお仕事について教えてください。

昨年度4月から羽島市教育委員会生涯学習課に勤務しています。生涯学習の仕事は、青少年健全育成や社会教育の推進、文化振興など幅広く、今まで携わってきた学校教育以外にも多くの方と接することができます。今までとは違った角度で教育を見ることができています。慣れない仕事ですが、多くの方に支えていただき、頑張っています。

教師になられてから大切にされたことを教えてください。

明治大学ラグビー部の北島忠治元監督に「前へ」という言葉があります。「現状維持は退歩である」と言います。現状に止まることなく、自分にできることは他にないか、改善できることはないか、そう考えて勤務をしてきました。子どもたちは日々成長をしています。その相手をする私たちが、「このままでよい」と思った瞬間から、子どもに接する資格がなくなると考えやってきました。今は、「夢をもって前へ」。前へ進むためのエネルギーは「夢」、常に自分が前進するための目標をもつことを大切にしています。



岐阜大学で学ばれたことが今に生きていますか。

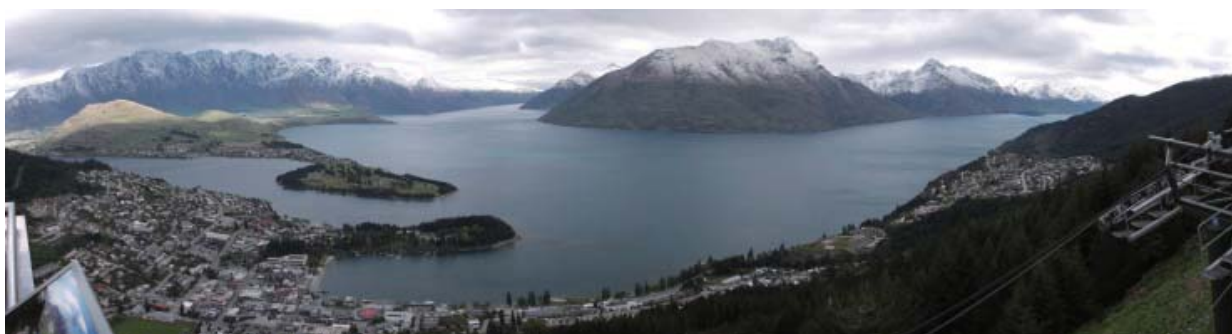
私は、地理科でしたので、巡検でいろいろな場所に行きました。そこで、実際の地形を見たり、そこで生きる人に接したりして、自然の偉大さや人の営みのすばらしさを感じました。教壇に立ってから、教材開発にあたり、現地に赴くことを大切にしてきました。教師が、まず、本物を見て感じることで、子どもの心を動かすことにつながります。大学で学んだ、足を運んで実物に触れる大切さが、教師としての今の私を支えていてくれていると思います。



後輩の岐阜大学生へ贈る言葉をお願いします。

学べるときに学んでおくことは大切なことです。今、勉強ができるときに、多くのことを自ら進んで手に入れてください。できるだけ、旅行をしましょう。様々な出会いは、必ず人を成長させてくれます。

「後生、畏るべし」と言います。皆さんの可能性は無限大です。自分の可能性を信じて、「前へ」進んでほしいです。



新人先生奮闘記

多治見市立陶都中学校教諭 丸山 晴子

平成 26 年度 英語教育講座 卒業



担任として子ども達に最初に話したことは。

学級開きでは、自己紹介と担任の願いを話しました。自己紹介では、読書が趣味であることを話し、お薦めの本を紹介しました。読書がもともと好きな子もそうでない子も、紹介した本に興味をもち、読んでくれたことで、自分を知ってもらうきっかけになりました。

担任の願いでは、「一生懸命な仲間を大切にできる学級にしたい。仲間と団結して、日常も行事も一生懸命に取り組んでいこう」と、1年間大切にしたいことを話しました。この願いを生徒たちは真剣に聞き、この願いを前提に学級目標を話し合って決めました。行事の前後や、成果や課題を感じたとき、この願いに立ち返って生徒に話をしています。

勤務で楽しかったことは何ですか。

私は中学校生活が一番楽しかったので、生徒にも仲間と全力でやることの楽しさを味わってほしいと思い、自分の経験も話しながら、宿泊研修や体育祭などを生徒と共に自分も楽しんでいます。

また、普段の何気ない会話で、生徒とテレビなどの話で盛り上がることも楽しいです。

教員として最も必要な力は何でしょうか。

私は、「子どもの目線に立って物事を考えられる力」だと思います。「子どもにとっては分かりにくいかな。分かりやすく、分かりやすく」と考えて教材を作ったり、話をしたりするようにしています。しかし、話が長くなってあきてしまったり、指示がわからないような顔をしていたりすると「あ、しまったな…」と反省します。

「自分が子どもだったら」という目線で考えることが大切だと私は思います。

夏休み等の長期休暇はどのようなことをしていますか。

夏休みはいつもより時間に余裕があるので、友達と遊びに出かけたり、趣味の読書を楽しんだりしています。職員旅行もあり、普段ゆっくり話せない先生との親睦を深めます。

しかし、生徒が登校しないだけで、毎日休みという訳ではなく、秋からの教材研究や、部活指導、成績処理、体育祭の準備、研修など、大学生時代に想像していた以上に忙しいです。

教員として最も必要な力は何でしょうか。

生徒に寄り添って考えることだと思います。授業でも、学級経営でも、生徒指導でも、このことが必要だと考えています。生徒の思考や気持ちに寄り添い、生徒が成長するためにはなにができるかと考え、日々悩みながら実践しています。

後輩の岐阜大学生へ贈る言葉をお願いします。

教員として働いている中で、やりがいを感じる時もあれば、本当に大変なときもあります。それはどんな職業でも同じだと思います。でも、生徒の笑顔を見たときや、生徒の成長を感じたときに、教員になって良かったなと思います。

在学中は、勉強や趣味、遊び、バイトなど、今やるべきこと、今しかやれないこと、今やりたいことに全力を尽くしてください。皆さんの活躍を期待しています。



退職された教員からのメッセージ

原田 憲一 先生

保健体育講座・教授

岐阜大学教育学部同窓生のみなさまへ

明るく元気のある子どもたちがいる社会は、きっといい社会だと思う。子どもたちは伸び伸びと育ってやがて将来社会を動かす構成員となってこの社会を動かしていくのだから、子どもたちに元気があれば将来の社会も明るく元気になる可能性がある。

政治家は、よい社会にしていこうために法律を作ったり制度を工夫したりして社会を変えようとしている。経済界の人達は、経済の発展こそがよりよい社会になるのだと努力している。学者は本当のことを明らかにすることが将来の社会に必要なことだと探究している。私達教育関係のものは、いい人間が多くなればいい社会になって行くと信じて教育について携わっている。難しいのではあるが、現実的な問題や困難なことを解決する可能性だけでなく、人として豊かな人間性を持った人のことなのだと思う。一緒にいたい人と夢や希望を持ってみんなで充実して生きられれば素敵なことだと思う。そんな社会になればいいと思う。



体育が専門だから、運動についてみんなで一緒に取り組んだ充実した生活だった。うまくなる為にどうすればいいのか悩んだり辛い練習をしたり、当時はとても苦しいものだったのだろうけれど、今思えば学生とのやり取り全てがとても楽しかった。

本当は私が、学生たちの背中を押してやり、引っ張り上げるのが私の仕事のはずだが、そんなことは何も出来なかった。学生は私を必要であるかのような言葉や素振りをしてくれた。そして何よりも、私に体育教員としての大きな大きな夢と希望を与えてくれた。結局、支えられたのは私の方だった。素敵な岐阜大学の教員生活だった。学生と卒業生に感謝です。



平成 29 年 3 月 31 日をもって、退職されたその他の教員の皆様は次のとおりです。

畑田 一幸	教授	数学教育
讃岐 京子	教授	音楽教育
廣田 則夫	教授	英語教育
鈴木 壯	教授	学校教育(心理学)
原田 敦史	准教授	国語教育
久保田浩史	准教授	保健体育
利部 伸三	特任教授	理科教育(化学)
後藤 信義	特任教授	教職実践開発専攻

着任された教員の皆様からのご挨拶

小川陽子 先生

国語教育講座・准教授

私の専門は日本古典文学です。『源氏物語』をはじめとする物語文学について、どのような人々によってどのように読まれたかを研究しています。たとえば、戦国時代、明智光秀と交流のあった里村紹巴は、『源氏物語』の注釈書を作成しました。彼の考えは、同時代の公家とどのような共通点・相違点があるのか、残された資料から探っています。あるいは、江戸時代後期、飛騨高山の田中大秀は、『竹取物語』の注釈書を作成・出版し、江戸や京など各地の人々に影響を与えました。大秀の書いた本やメモは今も高山に数多く保存されているため、今後ぜひ研究したいと考えています。

昨今、小中学生に向けて、昔の本を昔の文字(くずし字)のままに手に取り、一緒に読んでみようという試みが広がりつつあります。ホンモノに触れる経験は古典への興味につながります。こういった試みにご関心をお持ちの先生がおられましたら、ぜひご一報ください。

花木 良 先生

数学教育・准教授

奈良教育大学から異動してきた花木良と申します。愛知県に育ったので、こちらへ異動してきました。専門は、幾何学で特に結び目理論や空間グラフ理論です。空間グラフ理論と関連した知恵の輪を科学イベントで演示したり中高生に伝えたりもしています。岐阜県では瑞浪のサイエンスワールドで毎年開かれるサイエンスフェスタでブースを出展もしています。奈良では、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の運営指導委員も務め、高校生に指導したり授業をしたりしてきました。Rimseの算数・数学の自由研究に誘発され、中高生の数学発表会を開催し、中高生に研究の楽しさを伝える取組も実施していました。小中高の先生方とのセミナーも頻繁に行っていました。岐阜でのそのような現場とのつながりを楽しみにしています。数学を多くの人に伝え、数学を楽しく創りだせる人材育成を今後ともしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

内海志典 先生

理科教育講座(化学)・准教授

児童生徒に効果的に理科授業を展開するためのカリキュラム開発、教材開発、指導方法や教師の力量形成等について理論的・実証的に研究を行っています。研究対象は、小学校、中学校、高等学校です。具体的には、優れた理科カリキュラムについて、文献研究、授業観察、インタビュー調査等から得られた知見をもとに、カリキュラム開発を行い、その有効性について研究しています。研究科では、学部での研究を基盤として、理論と実践を統合し、より高度な研究を行っています。また、欧米において展開されているSTEM教育(科学・技術・工学・数学の教育)についても、わが国の教育に導入していく必要があると考え、研究しています。

これまでの研究成果や学校現場、教育委員会での経験を踏まえて、理科教育を中心として(その他の教科についても対応可能です。),教育現場の先生方のカリキュラム開発、授業研究、授業づくり、教員研修等に協力できればと思っています。

西尾 洋 先生

音楽教育講座・准教授

私の専門分野は作曲と音楽理論です。作曲は自分自身も含めて、今まで誰も聴いたことのない音による思考を組み立てる研究領域で、現代音楽と呼ばれています。文学が、既存の文字の組み合わせで新しい意味や世界観を構築したり、数学や物理学が、限られた数字と記号によって、世界のまだ知られていない構造を表したりするように、音楽もまた測定可能な周波数や音量などの加減と組み合わせの多様さによって、新しい形や意味を作り出そうとする分野です。そのような、一見すると無機質な空気の振動の変化のなかに何かの存在を感じ、心が動かされるかどうかは、受け手の知性や感受性の豊かさにかかっています。教育学部では、教員の卵たちが、この世界に生きることの喜びと楽しみを音楽に(も)見出せるよう、あるいは困難に見舞われても自らと他人を支えていく力として音楽を信じていけるよう、学術的にも人間的にも切磋琢磨できる環境を用意したいと考えています。

杉山真魚 先生

家政教育講座・准教授

家政教育講座の住居学分野担当として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。住まいに関わる伝統的技術、既存建築物の保全・活用、大正期・昭和初期の民衆芸術論、近代英国の都市・建築・工芸(アーツ・アンド・クラフツ運動)などが研究テーマです。成熟社会に相応しい住環境や生活空間の在り方、ものづくりとまちづくりを融合する方法を探究しています。フィールドに出て、建築物、資源、生業など様々な物事を直に見ることを大切にしています。現在、学生とともに岐阜県内の廃校舎の利活用方法を調査・検討したり、美濃を中心として和紙壁紙製作の実態調査を行ったりしながら、岐阜の魅力を実感しています。

今後、県内の木工、竹工、製陶、ガラス工芸などの状況を調べて回るとともに、生活空間を彩る品々のデザインやそれらを作り出す技能の面白さ・かけがえのなさを大学生、小中高生に伝えていきたいと思います。

飯田泰弘 先生

英語教育講座・助教

私は言語学(統語論・生成文法)の枠組みのもと、日本語や英語をはじめとした様々な言語の Wh 疑問文に興味を持って研究をおこなってきました。同時に、言語学の内容を英語教育で活用する方法も考え、自らの中学校・高等学校・大学での英語授業でも様々な形で実践してきました。また、最近では小学校・中学校・高等学校でも視聴覚教材を使える教室環境が整ってきており、映画(海外ドラマやアニメも含む)の英語教材としての可能性も探っています。映画は当然ながら娯楽を第一目的としており、そもそも英語教材となるために製作されていません。しかし、だからこそ、一般的な英語学習書には見られない英語表現や、言語学的に興味深いセリフ、あるいは特殊な文化的側面やその時代の特徴が色濃く表れたシーンなどが数多く観察できます。現在は、こういった少し特異なセリフやシーンをいかに日本の英語教育で活かせるかも考えています。

林 陵平 先生

保健体育講座・助教

保健体育講座の林陵平です。私の専門はトレーニング学、コーチング学となります。これまでに、トップアスリートを対象とした筋力・パワートレーニング法に関する研究や、子どもの走・跳・投運動に関する研究に取り組んできました。また、自らが行った陸上競技のコーチング実践を省察するといった実践研究にも取り組んできました。

実技の専門は陸上競技であり、2017年4月から岐阜大学陸上競技部の監督として学生の指導にあたっています。

今後は、これまでに取り組んできた研究を継続して実施していくとともに、体育の授業で活用することができる教具・教材および指導法の開発を目指していきたいと考えています。具体的には、運動が苦手な子どもを対象として「運動ができた」という喜びや楽しさを味わわせることができる教具・教材および指導法を開発することにより、子どもの運動に対する意欲の向上や体力の向上につながる研究を推進していきたいと考えています。

中田 隼矢 先生

技術教育講座・准教授

本年10月より技術教育講座に着任致しました。主に、金属加工に関する教育を担当し、前任校は岡山大学工学部機械システム系学科、それ以前は、材料メーカーと研究機関に勤務しておりました。機械をはじめ、我々の身の回りの全ての物は“材料”からできていますが、その材料に関する工学が私の専門となります。特に、機械の安全性向上や性能を向上させるため、金属の壊れ方やそれを防ぐ方法について研究をしています。岐阜は刀鍛冶の伝統があり、現在は刃物作りにその技術が引き継がれています。その他にも、航空機や自動車産業に関連した金属加工などの産業も盛んであり、ものづくりが根付いた地域です。その岐阜の地で、ものづくりの最も基盤となる技術分野の教育に携わることができ、やり甲斐と大きな責任を感じております。歴史ある本学部での教育に貢献できるよう努めて参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

松本拓真 先生

学校教育講座（心理学）・助教

私は臨床心理学, 子どもの心理療法, 乳幼児観察, 精神分析的
心理療法を専門に研究や実践を行っております。

小さい子どもや自閉スペクトラム症など, 言葉でうまく意志
を伝えることができない子どもの声にどう耳を傾けるかに関心
があります。

赴任前は, 教育委員会や大学の学生相談センターなどで臨床
心理士として勤務してきました。

その関係で大学では心理系科目に加え, 生徒指導と幼稚園免
許の講義も担当しています。

「自閉スペクトラム症を抱える子どもたち：受身性研究と心
理療法が拓く新たな理解」という単著が10月に金剛出版より
出版されました。

ご高覧いただき, ご感想などを教えていただけると嬉しく思
います。

今後ともよろしくお願いいたします。

原 尚 先生

教育学研究科(教職大学院)学校管理職養成コース・特任教授

平成29年4月から教職大学院でお世話になっています。即
戦力となる教員養成, 各地域で核となれる管理職養成を目指し
ています。私自身, 長年教育現場に身を置いてきました。これ
までの教諭, 教育行政, 管理職としての経験をもとに, 教育の今
後の動向を踏まえつつ, 学校現場における理論に根ざした実践
的な内容について情報発信をしていきたいと考えています。研
究室は教育学部A棟7階716です。ぜひお越しください。

岐阜大学教育学部体育学科, 昭和53年度の卒業生です。母校
に勤務できることを幸せに感じつつ, 現在, 教育学部同窓会(事
業部)と体育学科同窓会(監事)の仕事もやらせていただしてい
ます。今後いろいろな場面で皆様にはお世話になると思いま
す。よろしくお願いします。

お知らせ

教職大学院・教職実践開発コースは 夜間遠隔授業を平成30年4月より 開始します

岐阜大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻(教職大学院)教職実践開発コ
ースでは, 平成30年度より, 希望者には, 必修科目10科目を夜間遠隔講義で実施する
ことになりました。

これにより, 平日の夜間授業を受講するために岐阜大学に來れない方も, イン
ターネットに接続され, 遠隔講義を受講するためのソフトウェアがインストール
されているコンピュータがある場所であればどこからでも夜間授業を受講するこ
とができます。

大学院で日頃の教育課題を探究したいと考えている方は, ぜひ受験をご検討く
ださい。

各学科同窓

体育（事務局 本巣市立真桑小学校 清水 康孝）

- (1) 平成28年度 優秀選手表彰
平成29年2月3日(金)：体育学科卒業論文発表会にて実施
本年度は10名の大学の現役選手の表彰を行いました。
- (2) 平成28年度 同窓会入会式
平成29年3月25日(土)：卒業式後に実施
本年度は19名の新会員の入会がありました。
- (3) 平成29年度 同窓会総会及び還暦お祝いの会・懇親会
平成29年6月10日(土)
会 場：グランヴェール岐山
出席者：78名
毎年、原則6月の第二土曜日に開催しています。総会とともに、還暦を迎えられた方のお祝いと懇親会を行い、親睦を深めています。



地学（事務局 岐阜市立長良中学校 武藤 正典）

- 「卒業論文・修士論文発表会」への参加
- 「地学年末研修会」の開催
【期日】平成28年12月29日
【会場】石金
【内容】実践交流会, 研究会, 懇親会など



※毎年、12月29日に開催しています。参加していただける方は、事務局まで連絡をお願いします。

史学（事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 高木 良太）

- 1 「史明会」総会の開催
平成29年8月19日(土), ホテルグランヴェール岐山において、総会及び懇親会を行いました。
- (1) 総会
総会にはおよそ30名の同窓生が参加しました。役員の紹介や事業報告、会計報告等に加え、参加者のさらなる増加を目指して意見を交わしました。
- (2) 記念講演
岐阜県文化財保護センターから古屋寿彦先生、三輪晃三先生をお招きし、「最近の発掘調査の状況と報告」というテーマで講演していただきました。発掘現場の写真や図面を元に、詳しく解説を拝聴することができ、久しぶりに歴史にどっぷりと浸かることのできた有意義な時間でした。



- (3) 懇親会
講演会終了後には、懇親会を行いました。17名の同窓生がテーブルを囲み、思い出話やこれからの史明会のあり方について熱く語り合うことができました。

※平成30年度の史明会総会及び懇親会は8月25日(土)に行います。たくさんの参加をお待ちしています。
(問合せ先 岐阜大学附属小 高木)

国語（事務局 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎）

学科として定期的な活動を行っておらず、関係の皆様にはご迷惑をおかけしております。事務局として、同窓会名簿作成の業務を進めていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

英語（事務局 岐阜市立岐阜西中学校 水崎 綾香）

今年度、主だった活動はありませんでした。会員の住所変更等があった場合は、評議会において各評議委員が書記に連絡していただきますようお願いいたします。

同窓会の活動

が届いた学科のみ掲載しています。

音楽（事務局 郡上市立白鳥小学校 羽土 聡）

(1) 第17回総会・懇親会

- ・期 日：平成28年11月20日(日)
- ・場 所：ホテルグランヴェール岐阜
- ・参加者：恩師9人、同窓会員27人

3年に一度の同窓会を実施しました。今回も、多くの恩師の先生をお招きし、ふれあいが深まる会となりました。



(2) 同窓会入会説明会

- ・平成29年2月24日、羽土理事長が音楽棟で卒業生12名に、同窓会について説明しました。

(3) 卒業・修了記念コンサート応援

- ・2月12日、事務局3人が、サランカホールで実施したコンサートのリハーサルに伺いました。同窓会からステージ両サイドを彩る花を贈呈しました。

(4) 会報「間」編集委員と事務局会

- ・10月頃、事務局と新編集委員が、2年後に発行する会報や今後の見通しについて検討する予定です。(8月現在)

美術（事務局 岐阜市立青山中学校 小野 由加里）

1 平成29年度の報告

(1) 同窓会入会説明会

- ・2月21日、平成28年度卒業生に同窓会について説明し、入会式を行いました。

(2) 平成30年度夏季開催予定の評議会に向けた準備会

- ・8月25日に次期評議委員会(平成30年度夏季開催予定)の準備会を行いました。準備会では、平成22年度に開設した美術工芸学科ブログ「ぎふ美術の風」の今後の在り方について議論し、より広く県の美術教育の動向を発信することを目的として、ブログ内容を発展させていくことを決定しました。
- ・ブログアドレス <http://gibido.blog.134.fc2.com/>
- ・ブログタイトル 「ぎふ美術の風」



2 今後の活動

(1) 評議委員会の開催

- ・平成30年度夏季に評議委員会開催を予定し、準備会を進めていきます。

3 お知らせ

(1) 卒業・在校生展の開催

- ・平成29年2月21日(火)～26日(日)に岐阜県美術館において平成28年度卒業生による卒業制作展が開催されました。大学院の修了作品展、在校生作品展も同時に開催し盛況を博しました。本年度は平成30年2月20日(火)～25日(日)に岐阜県美術館にて開催されます。現在の美術教育講座の様子を知る機会です。ぜひ足をお運びください。

家政（事務局 吉田 麻子）

1 平成29年度の活動

(1) 会員の現況調査発送業務

各年次代表者の方宛に、各年度の同窓生現況リスト(平成29年7月抽出データ)を郵送し、現況調査確認の依頼をしました。平成29年7月17日(月・祝)に、幹事3名で発送作業を行いました。

回収した現況調査資料は平成29年8月20日(日)に幹事1名が集約し、岐阜大同窓会事務局宛で一般書留にて発送しました。

2 今後の活動

(1) 岐阜大学教育学部同窓会会員専用サイトの会員データの更新

岐阜大学教育学部同窓会会員専用サイトを積極的に活用できるようにする為、現況調査の結果を岐阜大学同窓会事務局にお願いし、現況調査の結果を同窓会会員専用サイトに反映しています。

(2) 同窓会総会

次期総会は平成31年8月に開催予定です。平成30年春頃に幹事で事前打合せを行い、準備を開始します。

平成29年度 各学科同窓会事務局連絡先

学科	担当者		電 話
国語	小島光太郎	恵那市立恵那東中学校	0573-25-5261
史学	高木 良太	岐阜大学教育学部附属小学校	058-271-3545
地理	坂口 亨	海津市立海西小学校	0584-67-3101
法経	丸山 靖生	健康福祉部 わかあゆ園	0585-32-2240
哲学	田中 明	岐阜市立長森北小学校	058-245-5249
数学	大石 章生	山県市立高富中学校	0581-22-1063
物理	奥田 好紀	郡上市立大中小学校	0575-82-2039
化学	白木 和雄	本巣市立一色小学校	058-324-0603
生物	山村 雄太	岐阜大学教育学部附属中学校	058-271-0320
地学	武藤 正典	岐阜市立長良中学校	058-231-7207
音楽	羽土 聡	郡上市教育委員会 学校教育課	0575-67-1468
美術	小野由加里	岐阜市立青山中学校	058-294-1555
体育	川治 秀輝	本巣市教育委員会	058-323-7762
技職	中西 健	岐阜市立長良中学校	058-231-7207
家政	吉田 麻子		0568-65-9860
英語	水崎 綾香	岐阜市立岐阜西中学校	058-239-1444
教育	安田 和夫		0584-78-1883

(1) 総会

【開催日】平成29年5月14日(日)

【会 場】岐阜大学教育学部 本館7階 大会議室

【講 演】岐阜大学教育学部 数学教育講座 助教 菱川 洋介 先生
演題「視野を広げるとのこと～微分積分学の発展に関わって～」

【研究会】発表者 岐阜市立長良西小学校 前川 真行 教諭
岐阜市立長良中学校 杉江 舞華 教諭

当日は、岐阜大学の岩田恵司名誉教授、山田雅博教授にも参加していただくことができ、約30名の会員の方と共に充実した研究会を行った。

会の終了後、会員同士の親睦を深めるために懇親会を行った。



(2) 本年度の活動計画

○同窓会名簿「わしょう」名簿システム化への移行

本年度は同窓会名簿の廃止と名簿システム化に関わる規約の改正、案内の発送をした。(運営委員会開催と改訂作業)

○数学科卒業予定者に対する説明会

数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。(平成30年1月予定)

○来年度以降の計画立案

運営委員会を行い、来年度以降の計画を立案する。(平成30年1月予定)



今年度は、岐阜地区にて3年に1度の総会及び懇親会を実施いたしました。20名の同窓生の方々に出席していただき、和やかな雰囲気の中、とても楽しい時間となりました。また、鶴匠の杉山秀二様をお迎えし、貴重なお話をいただきました。3年後の総会及び懇親会は飛騨地区で開催されます。ぜひ多くの会員様にご参会いただきますようお願いいたします。



● 編集後記 ●

同窓会報23号の編集を行なっている頃、岐阜市歴史博物館で開催された「レオナルド×ミケランジェロ展」へ行ってきました。この企画展では、二人が描いた素描が多く展示されていました。モデルを様々な角度から描いたり、モデルの動作を重ね書きしたりと、素描からは理想を追い求める芸術家の努力の軌跡を見ることができました。これがプロフェッショナルの仕事のあり方なのかもしません。

ペンシルバニア大学の心理学者アンジェラ・リー・ダックワースは、成功者がもつ共通点として「GRIT(グリット)」という能力を紹介しています。グリットは、物事を最後までやり遂げる力のことです。二人の偉大な芸術家の素描は、才能だけではなく、GRITの大切さも私たちに教えてくれているようでした。

GRITはどのように育てたらよいのでしょうか。その方法の一つとして、セイラー&コヴァル著「GRIT-平凡でも一流になれる『やり抜く力』」(日経BP社)という本の中では、努力の大切さを教えることを紹介しています。「日本の教育現場で言うと？」と考えてすぐに頭に浮かんだのは、反復学習(例えば、九九を覚える、漢字を何度も書く)。反復学習は、基礎・基本を身につけさせる学習だけではなく、その学習内容を自分のモノにするために何度も同じことを繰り返すことでGRITも身につけることができる素敵な学習なのかもしれません。(広報部会 今井亜湖)

同窓会報第23号の表紙

《Unripe》長瀬 理沙子

(美術教育講座平成28年度卒業)

一年前に卒業制作として作りました。
卒業後の進路について悩んでいた頃の作品です。
現在は、岐阜県で教員として働いています。
忙しい毎日ですが、子どもたちの笑顔に囲まれて過ごしています。



岐阜大学同窓会報第23号

発行日 / 平成29年12月発行

発行者 / 吉田 政直

発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL. 058-293-2344 (平日10時～15時)

FAX. 058-293-2343 (24時間)